

は いちはら福祉ネットの 信 一 と 通

2020. 10. 25発行
VOL.56

発行者 中核地域生活支援センター いちはら福祉ネット(千葉県委託事業)
〒290-0074 千葉県市原市東国分寺台3-10-15
TEL 0436-23-5300 FAX 0436-23-5225
ホームページ http://park22.wakwak.com/~ichihara_f.net/
メールアドレス ichihara_f.net@bh.wakwak.com



年4回発行(4,000部)

考えよう『8050問題』～高齢者福祉の現場から～

8050問題とは？

皆さんは、『8050世帯』という言葉聞いたことはあるでしょうか？『80』は80歳代の高齢の親を、『50』は50歳代のひきこもりなど自立できない事情を抱える子を指し、それらの世帯を8050世帯といいます。内閣府の調査によると、40歳～64歳のひきこもりの推計は、全国で61万3千人にのぼっています(内閣府：平成30年度生活状況に関する調査)。ひきこもりの長期化・高年齢化は、当然ながら親の高齢化が伴い、ひきこもりと併せて介護の問題に対応する必要が出てきています。

そこで、日ごろからこの問題に取り組んでいる以下のセンターで座談会を行いました。

市原市基幹型包括支援センター(以下:基 幹)	各地域包括支援センターの総合的な調整や後方支援等を担う機関の立場から
市原市地域包括支援センターごい(以下:ご い)	都市部の地域包括支援センターの立場から
市原市地域包括支援センタートータス(以下:トータス)	農村部の地域包括支援センターの立場から
いちはら福祉ネット(以下:ネット)	子の世代にかかわる支援機関の立場から

8050問題を抱える世帯の相談は、どのようなきっかけで受けるのでしょうか？

- トータス** きっかけは親の介護の相談が多いです。介護の相談で自宅に訪問したら、ひきこもりの子が同居していたといったケースです。ほかにも施設から「親の介護利用料が未払いになっているので関わって欲しい」とか、別居している親族から、「弟が20年以上ひきこもりで会えないが両親が高齢になって心配」など、相談の経路や内容は様々です。
- ごい** 近隣や警察からの通報がきっかけになることもあります。ケアマネジャーからの相談では、「介護サービスを導入したいが上手くいかない」「介護サービスを使わなくてはいけない状態なのに、息子が反対してサービスが使えなくて困っている」など、介護サービスのトラブルから8050世帯の問題に直面することがあります。
- 基 幹** 病院からの相談で、「親の介護が必要だが、ひきこもりの子に制度説明をしても協力を得られず困っている」などの相談があります。
- ネット** 親族からの相談で、「ひきこもりの子が仕事をしていないので、親なき後が心配」という相談が入ります。また、民生委員を通して「家族が疲弊しているので支援してもらえないか」などの相談も多いです。

どのような課題を抱えている方が多いのでしょうか？

- ごい** 「8050」のケースでは、高齢の親へのお金の無心や、搾取もみられます。最近では60代になった子が無年金など『9060問題』のケースも増えています。
- トータス** 経済的な問題は大きいです。中には「親の金を使うのは当たり前だ」と訴える方もいます。しかし、よく話を聞いてみると「会社でパワハラにあって仕事をするのが怖い」「幼少期にいじめられた経験がある」など、親に頼らざるを得なくなった子の事情も見えてきます。家族や子の歴史を聞いてみないと一概に子が悪いとは言えないケースが多いです。
- 基幹** 背景に小さいころからの親との葛藤を抱えている人もいます。過去の親との関係でできた傷をずっと解消できず、親との関係が悪化してしまう方もいるように思います。

相談機関として感じることはどんなことでしょうか？

- 基幹** 子世代の人に会うと、ひきこもりに限らずアルコールの問題や精神的な病気など様々な状況の方がいます。親は周囲に相談ができず問題が家庭の中に潜在化する傾向にあると思います。家族が疲弊しており、パワーレス感を感じることもあります。
- ネット** 子世代の方たちは、これまで支援につながってこなかった人たちがほとんどです。内閣府の調査では、40歳～64歳までのひきこもりの方のうち、7年以上のひきこもりの方が約5割を占めています。長期化するひきこもりは孤立化する心配が高まります。
- トータス** 実際に会うことができない、支援を望まない人への支援は、介入が難しいです。親は「子を働かせて欲しい」と言いますが、ひきこもりの人は過去に働いていたが挫折した経験を持つ方が多いので、単純に就労支援に繋いでもうまくいかない傾向があります。
- ネット** 若者のひきこもりには支援機関がありますが、40歳以上の方にはなかなか支援が行き届いていないのが現状です。10年20年働いていない中高年が働くのは難しいし、就労に対して不安や恐怖があると思います。就労ありきの支援ではなく、居場所づくりなど多様な支援が必要ではないかと思っています。
- ごい** 親と子が近すぎる関係の世帯の支援も難しく感じています。権利を侵害されていても子をかばい、結果的に重篤な状況になってしまう親御さんもいます。また、アルコールの問題を抱えた世帯などは、子の体に悪いとわかっているにもかかわらず親がお酒を買ってきてしまうなど、危機的な状況にならないと介入できない事例も多いです。
- トータス** 相談を受けてもなかなか介入が難しいですが、早い段階でその世帯にかかわっていると何か問題が起きた時に支援につながりやすいです。

ま と め

今回の座談会を通して、高齢者の問題だけでなく、高齢者世帯に潜在化している子世代にもかかわっていく必要があること、家族にはそれぞれ生活してきた歴史があり、一概に誰が悪いといえない状況があることなど、様々な支援の視点やヒントを得られたように感じています。

8050問題は、高齢者福祉分野だけで解決できる問題ではありません。これまで支援の対象になってこなかった子世代の人たちにも焦点を当て、様々な支援機関がそれぞれの専門性を活かしてかかわっていく必要があると感じています。





おたがい“困った” ときは助け合おうね ～障がいについて知ろう～



大勢がお互いに相手を気づかい、助け合うことのできるまちいちほらをめざそう!

◆バリアフリーってなに？

バリアフリーとは、いろんな人が生活するうえで、障壁(バリア)をなくすること。様々なバリアがあることで、障がいがある人もない人にも暮らしにくい社会になっています。障がいの有無にかかわらず、高齢になっても、どんな立場でも安心して自由に生活するために、建物や交通機関などのバリアフリーだけでなく、人ひとりがいろんな人のことを思いやる「心のバリアフリー」を広げ、それぞれの障がいに合った接し方や工夫が、合理的配慮にも繋がっていきます。

◆クイズにチャレンジ!(A～Cの中から選びましょう)

<p>Q1 エレベーターの中の大きな鏡は何のため?</p> <p>A 身だしなみのため B 中を広く見せるため C 車いすの人が後方確認するため</p>	<p>Q2 耳の不自由な人が手を使って話す話は何に?</p> <p>A 口話 B 手話 C 点字</p> 
<p>Q3 道で見かける黄色の点字ブロックは何のため?</p> <p>A 目の不自由な人が安全に歩けるよう誘導するため B 道をきれいに見せるため C 転ぶのを防ぐため</p> 	<p>Q4 信号機から音が流れるのは何のため?</p> <p>A 盲になったことを視覚障がい者に知らせるため B 癒しのため C 街を明るくするため</p> 

リーフレットの ご紹介

市原市役所 障がい者支援課、市原市障がい者支援協議会権利擁護部会が発行したリーフレット『おたがい“困った”ときは助け合おうね～障がいについて知ろう～』では、様々な障がいをお持ちの方々へ、どのような配慮が必要なのか、どのようなことが生活の障壁になるのかを分かりやすく解説しています。ぜひ一度お手に取ってご覧ください!

問合せ先

市原市役所 障がい者支援課
0436(23)9815



「グループホーム入居者の声を聞いてみよう!!」③

第3回目は、知的障害を持つ10代男性の入居者からお話を伺ってきました。

Q、なぜ、グループホームへの入居を決めたのですか？

A、グループホームへ入居する前は、児童養護施設で生活をしていました。特別支援学校を卒業後、企業への就労が決まり、寮生活を選ぶことも可能でしたが、一人での生活に不安を感じたため、生活の支援が受けられるグループホームを選びました。

Q、現在、グループホームではどのような生活を送っているのですか？

A、月～金曜日は仕事に行くため、7時にグループホームを出ます。18時まで仕事し、19時頃にグループホームへ帰宅します。休日は、仕事を忘れてグループホームでのんびり過ごしたり、外出して息抜きをしています。しかし、現在は新型コロナウイルス感染症の影響で、自由に外出出来る状態ではないため、少し不安を感じています。

Q、将来の夢、今後の生活の希望などはありますか？

A、最終的な目標としては、グループホームを卒業して一人暮らしをすることです。そのために、一般社員と同じ仕事内容を任せてもらえるようになりたいです。

将来の目標に向けて、一歩ずつステップアップしていきたいという想いを、インタビューを通じて感じました。



旬の食材を使ったヘルシーメニュー

保育園給食の人気メニュー

酢味噌和え

(1人分：56Kcal)

材料 トマト120g、きゅうり80g、乾燥わかめ0.8g、ツナ水煮60g、
(4人分) 米酢12g、三温糖12g、味噌12g、ごま油6g

- 作り方**…① 小鍋に米酢、三温糖、味噌、ごま油を入れて加熱し混ぜながらよく煮溶かす。常温まで冷ましたら冷蔵庫で冷やしておく。
- ② トマトの皮を湯剥きして種を取り除き、一口大の大きさに切る。
- ③ きゅうりは薄く半月切りにし、乾燥わかめは水で戻す。
- ④ きゅうりとわかめを沸騰したお湯で茹でて、流水でよく冷やしておく。
- ⑤ 大きめのボウルにトマト、きゅうり、わかめ、ツナ水煮、①で冷やしておいた調味料を入れて、よく混ぜ合わせる。

栄養士さんからのおすすめの一言・・・

「子どもが食べやすいように酸っぱさをなくすコツは、酢味噌を加熱することとトマトの種を取り除くことです。」

今回のレシピは、社会福祉法人風の森 風の子保育園 栄養士 林佑紀奈様に提供していただきました。

【会議等出席・開催状況 R2/7/1～9/31】

- 7/8 新しいつながり事業を考えるオンラインセミナー (WEB)
- 7/10・7/14・8/11・9/8 市原市要保護児童対策地域協議会
代表者会議 実務者会議
- 7/13・8/17・9/14 千葉県精神障害にも対応した地域包括ケア
システム構築推進事業 実務者会議
- 7/14・8/18・9/8 加茂地区民生委員児童委員協議会
- 7/14 地域共生社会に係る研修会
- 7/15 第2回ゆるネット勉強会 (WEB)
- 7/18・8/22・9/19 ちはら台地区福祉総合相談
- 7/22・8/4・8/19 中核地域生活支援センター連絡協議会
制度政策委員会 (WEB)
- 7/22・9/15 市原市認知症対策連絡協議会 総会・役員会 (WEB)
- 7/28・8/25・9/23 中核地域生活支援センター連絡協議会 例会
- 8/6・9/1・9/24 市原市障がい者支援協議会 全体会 権利擁護部会
- 8/7 貧困問題に関する懇談会
- 8/27 自殺対策ワークショップ
- 8/28 市原市相談支援事業所連絡会「銀杏の杜」勉強会
- 9/16 中核地域生活支援センター連絡協議会 研修会 (WEB)
- 9/25 司法と福祉の勉強会
- 9/28 市原市精神保健福祉フェスタ実行委員会

いちほら福祉ネット活動報告

新型コロナウイルスの影響により、新しい生活様式が示され、これまで開催を見送ってきたイベント・会議も感染対策を行いながら実施されています。

参加人数が多い研修会などはインターネットを使ったオンラインでの開催となっており、徐々に定着してきています。今後も様々な形を模索しながら感染対策と地域づくりを両立する必要があると感じています。

いちほら福祉ネットへの相談件数

(速報値)

令和2年7月～令和2年9月

延相談件数 2,160件(新規93件)

相談方法	対象者
電話 1,713件	高齢者 180人
訪問 315件	障害者 1,260人
来所 79件	児童 66人
個別支援会議 53件	その他 654人

令和元年度(4月～9月)

延相談件数 4,142件

お詫びと訂正 は一と通信 VOL.55に誤りがございました。以下のとおり訂正をさせていただきますとともに、関係者各位ならびに読者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを謹んでお詫び申し上げます。

P1 1行目 【正】 令和2年1月 【誤】 令和2年1月16日